

第74回

“社会を明るくする運動”

～犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ～



作文コンテスト表彰式(小学生の部)



作文コンテスト表彰式(中学生の部)



「心のバリアフリー」

仰高小学校 6年生
田中 佑奈さん



私は、よく電車に乗る。特に電車が好きだから、そのような理由は特にない。ただ単に用事があるだけ。

ある日、私はいつもどおりの電車に乗った。電車にはもう慣れたので、ひとりで乗っている。あ、電車が来た。6両編成だ。すると私の後ろに並んでいた明らかに年下の男の子が前に出てきて近くのおばあさんに話しかけた。

「すみません、この電車にのりますか。」

「あ、そうです。」

「それなら電車は6両編成だから、そこには止まらないので、こちらのほうがいいと思いませんか!」

「あら、ホントだ、どうもありがとう!」

そう、おばあさんが乗る場所を間違えて電車を待っていたのだ。6両編成なのに、7両目のホームドアの前にいた。そして、その後おばあさんもその男の子も笑いながら電車に乗って見知らぬ人にとっさに何かを言うことはできないし、そもそもそんな人があることに気づかないかもしれない。

その約1週間後、私は再び6両編成の電車を待っていた。そうすると、今度はお兄さんが7両目のドアの前にいた。今度は私が話しかけよう!という気持ちはあったが、もし話しかけることで迷惑をかけてしまったらどうしようかと不安になり、話しかけることができなかった。

家に帰ってから母にそのことを話すと、

「その気持ち、よくわかる。私も例えば、目の見えない人が杖を持って歩いている時に、杖の邪魔にならないように歩くことはできるけれど、もしその人が何か困っていらぬ時に、大丈夫ですか?と話しかける勇気はなかなか出ない。話しかけるって難しいよね。」

確かに、道をあげたり、電車で席を譲ったりするような、相手が何に困っているか分かりやすい時は、私も迷わずに助けられる。そうではないときに話しかけることがうまくできないのだ。

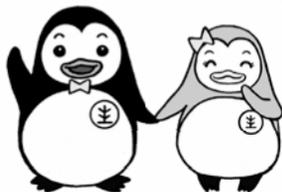
私は、おばあさんを助けた年下の男の子の行動を見て、積極的に声を掛け合うことで今よりも明るい社会になるのではないかと思った。あの男の子のように迷わず声をかけること、また、何か困ったことがありそうな人に積極的に話しかけること。そのためには、どうしたらよいのだろうか。街の中の不便を感じやすい場所、例えば狭い道路や急勾配の坂、信

号がすぐに変わる横断歩道などでは、困っている人がいるかもしれない。だから私は、日頃からどういふところが不便なのかを知り、意識するようにしたら良いのではないかと考えた。そういえば4年生の時に、総合の学習で、地域のバリアフリーの場所についてくわしく調べて発表したことを思い出した。私の住んでいる巣鴨駅の周りにも不便を感じる所とバリアフリーになっている所がいくつもあった。その時調べたこともとても役立つと思う。不便なところだけではなく、バリアフリーの場所も知っておいたほうが助けやすいこともあるのではないか。

様々な心身の特性や考え方を持つすべての人々が、相互に理解を深めようとコミュニケーションをとりあい、支え合うことを「心のバリアフリー」と言うそうだ。私が思った、積極的に声を掛け合うということは、この「心のバリアフリー」の、相互に理解を深めようとコミュニケーションをとり、支え合うことに通じるのではないだろうか。また、「心のバリアフリー」には、様々な心身の特性や考え方を持つ人々を理解するという含まれているので、ただ何かに困っている人に声を掛けるだけではなく、色々な考え方についても知って理解し、コミュニケーションを取るようにしたいと思う。

心のバリアフリーを大切に、勇気を持って声を掛けること。そしてみんなで、少しずつでも助け合いを行えば社会が変わると思う。また、私達から実行していけばそれがだんだんと広がって行くのではないか。そして日本中が笑顔あふれる社会になればいいと思う。

だから私は、勇気を持って積極的に声をかけていきたい。



身近な人に声を掛けること

貞静学園中学校 3年生
長崎 大嘉さん



昨年11月19日、ぼくの祖父は病気で亡くなりました。近所付き合いを大事にしていた祖父の通夜には、顔なじみの方がたくさん参列してくださいました。その中には、小学1年生くらいの子の姿もありました。その子は祖父の棺に近寄りいき、1枚の紙をそっと入れていきました。それはひらがなでいいに書かれたお手紙で、「おじちゃん、いつもみまもってくれてありがとう」と書いてありました。

祖父は、小学生の登校を見守るボランティアをしており、毎朝「おはよう」「いってらっしゃい」と声を掛けていました。そのため、最後のお礼を伝えようと、お母さんといっしょにわざわざ駆けつけてくれたのです。

自分を見守ってくれる人がいる。自分に声を掛けてくれる人がいる。何かあったときに話を聞いてくれる人がいる。ぼくは祖父を通して、大切なことに改めて気が付いたのです。

祖父が見守りボランティアを始めたきっかけは、地域の安全安心のためだったのはもちろんですが、それ以上に「恩返し」の気持ちが強かったからでした。

祖父が小学校に入学するときのことです。家が貧しく、その日食べる物があるのか分からない生活をしていました。そんな中、親がランドセルを用意してくれました。しかし、いざ登校してみると、自分のランドセルは他の子よりも見た目が悪く、明らかに粗悪なものだったのです。恥ずかしくて、帰りは隠すようにして持って帰りました。自分の親を、自分の生まれた環境を憎んだ最初の日が、この入学式だったそうです。

その後も、グローブが買えないから「部活には入らん」と強がる。弁当を作ってもらえないから「お腹は空いとらん」とごまかす。一事が万事、貧しさゆえにみじめな思いを味わいました。

そのような生活が続き、卑屈な思いに押しつぶされて自暴自棄になりそうな自分を、ギリギリのところまで止めてくれたのが、近所の人からの声掛けだったそうです。

「元気にやっとなか」「ちゃんと食べるか」「がんばるとるじやないか」

この地域に住んでいて嫌な思いもたくさんした。だけど、助けてもらうこともあった。だから、今でももらった恩を返していきたい。自分を蔑む人がたくさんいる中で、足を踏み外さないで踏ん張れたのは、近所の人たちのあたたかい目と手と声だったのです。

祖父のように、つらいときや困ったときに声を掛けてもらったことで頑張れたという人はたくさんいると思います。ぼく自身も、周りの人たちに支えられて今まで頑張ってきたことができてきました。

ぼくが小学1年生のときは、「ぼくなんていなくなってしまうばいんだ!」と泣いて、母を困らせていた時期でした。

ぼくは、会話のキャッチボールがうまくできず、人とのコミュニケーションがとりづらい状態でした。発音もできるし意味も分かるのに、他人との会話のやりとりができない。うまくできないのが分かっているから、人と話したくもない。今思い返してみても、本当に苦しい、もどかしい、どうしたらいいか分からないという思いでいっぱいでした。そして、自分を自分で否定してしまっただけです。

ぼくはその後、「ことばときこえの教室」に2年間通いました。2年という時間をかけて自分の居場所を見つけ、自分の得意なことと苦手なことを知り、自分の言葉が伝わるうれしさを感じられるようになりました。

通級では、先生方が本当に親切に指導してくださいました。ぼくが話し出すのをゆっくり待ち、ただどしどし話をじっくり聞いてくれました。さらに、自分の思いを表現する方法として日記を勧めてくれました。水族館でペンギンを見たことや大好きなヒーローの映画を観たことなど、自分がしたことや思ったことを自由に書きました。ぼくが書いた文の横にぴつりと引かれた赤い波線と大きな花丸は、今もぼくが頑張る原点になっています。

家族もぼくのことを一番近くで見守ってくれました。そのおかげで、安心感が生まれ、自分を認められるようになりました。

あれから6年経ち、現在ぼくは中学3年生となりました。中学校の最高学年として、後輩たちをまとめていくリーダーシップが求められています。しかし、ぼくは人前に立つのが苦手です。緊張もするし、うまくやれる自信もありません。だからぼくは、後輩たちが困っていないか、一人になっていないかをよく見て、こまめに声を掛ける先輩になりたいと思っています。

社会を明るくするために必要なのは、人と人とのつながりです。祖父のように、まず、身近な人に声を掛けること。この作文は、ぼくの決意表明です。

小学生の部 842作品

作文コンテスト受賞作品

中学生の部 650作品



犯罪を減らすためにゴミ拾いを

仰高小学校 6年生 加藤 紗綾さん



私の住んでいる街では、毎年5月30日に「ゴミゼロデー」という取り組みが行われます。この日は、学校の周辺にあるタバコのすいがらや紙クズ、ペットボトル、空き缶などのゴミを、全校生徒で拾い集める清掃活動します。街を掃除すると、環境破壊が抑えられ、自然が守られるばかりでなく、犯罪防止にもつながるそうです。私はなぜ街がキレイになると犯罪防止につながるのか、少し不思議に思いました。

私は自分の部屋が散らかっていても、そのままほったらかしにしてしまう時があります。ですが、自分から進んで部屋を片付けると自然と心もキレイになるような気がします。同じように街を掃除をした人自身の心も整えられて、悪いことをしようとする気持ちが抑えられるのかなと思いました。

また、妹の部屋はとても散らかっています。そのため、妹のものが1つや2つ部屋からなくなっても気づかないと思いました。私の欲しいものがあったら勝手に持って行ってしま

うかも、と思うときもあります。もし妹の部屋がキレイであつたらこんなことはおそらく考えません。散らかっている空間にいると、私の弱い心が出てきてしまうように思います。

そもそも大切にされる場所は整然としていて美しいことが多いと思います。例えば神社などはいつも片付けられていて整理されているイメージがあります。神様を大切にしていることがとても伝わります。同様に街をキレイにすることは街に住む人たちを大切にすることで、人は大切にされると悪いことはあまりしないと思います。

街の掃除と犯罪の関係についてインターネットで調べてみると、「割れ窓理論」という理論があることを知りました。割れ窓理論とは、1枚の割られた窓ガラスをそのままにしていると、さらに割られる窓ガラスが増え、いずれ街全体が荒廃してしまうという、犯罪学者のジョージ・ケリング博士が考えた理論です。

ゴミがたまっていて汚れている場所は、「少しくらいルールを破っても大丈夫」という考えになってしまう、犯罪発生率の増加につながると思います。また、街の人たちがゴミを見て知らんぷりをするのは、目の前で万引きしている人を見た時にも知らんぷりをする人が多くなるそうです。そういう場所だと思われないうえにも、街の人々が清掃活動を心がけることはとても大事なことになると思います。

そして、ただ一定の人が清掃活動をするだけでは犯罪は減りません。少数の人がやっけていても、その意識は限定された人たちだけにしかないということになります。たくさんの方がこの問題に向き合うことで、一人ひとりの心がキレイになり、犯罪を起こそうと思う人が少なくなると思います。地域団体、学校、市民がれんけいし、たくさんの人にボランティア活動などを呼びかけられると良いと思います。

街をキレイにすることというのは、街を大切にすることです。街を大切にすることというのは、住んでいる人々を大切にすることです。大切にすると人も大切にされた人も増やしていくことが、犯罪を少なくすることだと思います。そうして明るい社会をつくっていきけるとよいと思います。

ていると嬉しい、と言っていました。私も、友達の片付けを手伝ったときに、本当にありがとうと言ってくれたのが、とても嬉しかったです。何も考えずにありがとう、といっぱい言うのではなく、心のこもったありがとうを言うのが大切だと思います。

そして、感謝することに何のメリットがあるのかを調べたので、いくつか発表します。それは、身体的な効能として、免疫力の向上、痛みの軽減、血圧の低下などがあり、心理的効能として、ポジティブな感情の高まり、楽天性や幸福感の高まりなどが挙げられるそうです。さらに社会的効能として、他者を助け寛容で慈悲深くなる、孤立感や孤独感の軽減、外向性の向上などの変容が見られたそうです。つまり、感謝をすることで、幸福感も高まり気分や身体、人間関係が良くなるなど、ポジティブな影響がある、とのことでした。私もこの資料をみて、たしかに感謝したら、最近あまりストレスを感じないなと思いました。

私は、些細なことでも感謝をすることがとても大切だと思います。感謝する人も、される人も嬉しくなり、健康やストレスの低下にもつながります。皆さんも、意識して、感謝を試みてはいかがでしょうか。

例えば学校で友達困っていたらそつと声をかけたり、のりもので席をゆずったり、道に迷っている人がいたら、道案内をしたり、自分ができる人への思いやりを増やしていれば自分自信がつくと思いました。

そして、自分がそうした思いやりが人に伝わっている人も人も思いやれることができるきっかけになつたらうれしいです。

人は生きていくのに一人では生きていけないとよく言われます。私もお父さんやお母さんがいないと大好きなサッカーをすることもできないし、ご飯や洗たくすじも自分でやらなければなりません。私の家には8人も住んでいます。おじいちゃん、病気のおじいちゃん、お父さん、お母さん、お兄ちゃん2人とお姉ちゃん、もう亡くなったけれど寝たきりのおばあちゃんもいました。私の家にもいろいろな年齢や体の不自由な人がいるので、できる人がやらないと生活ができません。家の中でもお互いが協力しないと生活ができませんから家族以外でも協力がたり手伝ったり、自分も助けてもらったり、いろいろな人と助け合えないとなりません。だから、助け合いの世の中で、みんながやさしい気持ちが増えたらうれしいです。

ことが大事だと思います。そして、些細なことでも感謝する、という習慣をつけるなど、心から、すぐに感謝をすることが大切だと思います。心のこもった感謝をされると、された人はとても嬉しくなります。私は昔、グループでそっせんして発表してくれた友達に、すぐありがとう。と言えました。その時、友達はうんと言ってくれました。そのことから、感謝をしてよかったな、と心に残りました。なので、感謝は大事だと思います。

ですが、感謝をされると皆嬉しいの?と思う人もいます。そこで、感謝をされると嬉しいか、とアンケートを取りました。結果、皆がうれいと言えました。その中の数人にインタビューをしてみると、気持ちを込めると、良いことをした実感が湧く、や感謝は身近でよく言ってくれるけど、一つ一つに気持ちがあつて嬉しいなど、気持ちがこもっ



どんなことでも感謝をしよう

巢鴨小学校 6年生 根本 柚希さん

皆さんは、些細なことでも感謝できていますか。私は、だいたい言えています。そして、感謝をすることはとても大切です。そこで、私は「どんなことでも感謝をしよう」を提案します。これは、些細なことでも感謝をよくしようというものです。

感謝をよくすることは、自分の気持ちも良くなり、ストレスも溜まりにくく、健康にも好影響と科学的に証明されています。

ですが、最近感謝の声を聞かなくなりました。なので、自分は感謝をできているのかというアンケートを取りました。結果は、半々でした。つまり、感謝できている時とできていない時があるということです。感謝をできていない人は、心から感謝ができない、やありがとうとあまり言わないと言っていました。私がなにかやらかした時、すぐ出てくる言葉は、ごめんね。ですがそんな時、ありがとうと言えるようになる



共に支え合い、共に乗りこえていこう

目白小学校 6年生 鷹取 采那さん



私は目白駅で目の不自由な人がホームから転落して亡くなる事故があったことを電車で乗る時に母から聞きました。今では、駅のホームにはホームドアが付いています事故があった時はなく、ホームの幅も狭いのでお母さんでさえ怖かったそうです。特に子供を連れて電車に乗る時には、気をつけたと言っていました。

私はその話を聞いてから、目の不自由な人を見かけると大丈夫かなと気になります。でも、自分から声をかけたりするには勇気がいらいます。白い杖をついているので目が不自由なんだとは分かりますが、どんな人なのか分からないし、知らない人なので、正直声をかける自信はありません。だからと言って、その人がぶつかったり、落ちそうになるのが心配なのでお手伝いしたいと思います。ある時、母と病院の帰りに目の不自由な人が前を歩いていました。途中から点字ブロックがない道だったので、杖にあたる物もなくとても心配になりました。一緒にいた母はとっさに声をかけて

「お手伝いします。この道は点字ブロックがないのでどちらへいらついていますか。こちらにおつかまりください。」と腕につかまってもらいう道案内をしました。私は母がさつと声をかけてお手伝いできることはすごいなと思いました。そして母は私に

「無事に帰ることができていいね。」と言っていました。人を思いやることはとても大切なことだと思います。世の中には、高齢者や子供連れの人、車椅子の人、耳の不自由な人、様々な出会いがあると思います。そのような時に大変そうだったり、困っている感じがしたり、手助けが必要だと感じたら、迷わず手を差し伸べることができるようになりたいと思います。世の中の人々が思いやりのある親切な人が増えたら、ハッピーだと思います。私もそのような出会いがあつたら、見て見ぬふりはしたくないです。だから、自分にできることを増やそうと思いました。



「命が教えてくれた」

西巣鴨中学校 3年生 宮原 蒼介さん

僕は、小学2年生の頃におじいちゃんを亡くしました。

ある日、いつも通り通っている学校に電話が届き、早速知らせになりました。家に帰ってお母さんから、実家に帰るから今すぐに準備をするようにと伝えられました。昼過ぎには家を出て、急いで実家に到着したのは夜でした。お母さんが玄関の扉を素早く開け、急いで靴を脱ぐのを不思議そうに見る僕、なんでそんなに急いでいるんだろうと思っていました。が、仏間の扉を開けると、思いもよらなかった景色がありました。そこには布団の中に横になり、目を瞑り、肌が白く冷たくなったおじいちゃんがありました。お母さんはすぐに駆けつけ、冷たくなった手を握りました。僕は、そんなお母さんとおじいちゃんを、衝撃的な気持ちに押しつぶされ、立ち止まって見つめることしかできませんでした。

時間が経つにつれ、お葬式などの準備が始まり、おじいちゃんのことを考える日々が続いて、今まで僕はおじいちゃん

んに何もしてあげられていないと思うようになりました。今でも、おじいちゃんに小学2年生の頃の僕が、何をしてあげられたかは分かりません。でも、どんな些細なことでも、さつとおじいちゃんは喜んでくれると思いますが、おじいちゃんは何をしてもらえたら喜びのか、嬉しいのか分かりませんでした。そう、僕はおじいちゃんのことを知らなかったのです。僕が生まれてから7年間の間でも、少ない時間しか時を共にすることができませんでした。おじいちゃんは僕との思い出がたくさんあるのかも知れないけれど、僕がおじいちゃんとの思い出を鮮明に覚えているのは、片手で数えられるほどしかありません。おじいちゃんがたくさん僕のことを可愛がってくれたのに、僕はおじいちゃんに何もしてあげられなかったことが心残りでした。だから、これからは人間関係で心残りにならないように、自分から相手のことをよく知ろうと、この経験で考えることができました。命を守るのは当



罪の償い

西池袋中学校 2年生 大橋 彩希さん

罪を犯してしまったとき、どうすればよいのだろうか。罪といつても、万引きだとか、大きなものではなく、小さいこと。友達に一言さつと云ってしまったとか、そんなこと。さつと、そんなことは罪とは呼ばれないのかもしれない。だけど、そういう小さな罪はたくさん犯しているはずだ。

先日、部活の帰りに車いすのおばあさんを助けた。道の真ん中で、動きづらそうにしていたので、私と友人二人は、家まで送ってあげることにした。道中、いろいろなことを話したが、そこでおばあさんは「助かるわ。」や、「ありがとう。」

と私たちに伝えてくれた。家まで送りとどけたあと、家までの道のりで、私は思った。「今日は良いことをしたな。」と。私の両親は、良いことをすれば巡り巡って自分に返ってくる、と言っていた。それでは、果たして悪いことをすればどうなるのだろうか。たとえば、友人をいじめた、とか。さつといじめた人は、悪いことをしたのだから、周りにも嫌われてしまう。良いことをすれば、周りから好かれる。悪いことをすれば、巡り巡って返ってくる。もしも悪いことをしてしまったら、反省しなさい、と怒られる。悪いことをして、反省し、良い行動



あいさつと社会を明るくする運動

西池袋中学校 2年生 広川 結衣さん

私は、犯罪や非行のない社会を目指すために、「あいさつ」が大切だと考えます。

私達は学校全体で、あいさつに力を入れて取り組んでいます。学校が始まってすぐの全校朝礼で、校長先生があいさつをする意義についてお話されていました。私は、その話を聞いて、この「社会を明るくする運動」とあいさつのつながりについて、三つのことを考えました。

一つ目はあいさつを積極的に行うと、犯罪や非行の減少につながるということです。学校内であれば、すれ違った大人の人にあいさつをし、地域内であれば、知り合いの人に会ったらあいさつをすることで、この場所は人気のある場所だというイメージをつくることができます。人目のつく場所だと不審者は犯罪や非行をしにくくなります。結果的に、犯罪や非行の減少につながるのです。あいさつは、いつでも、どこでも、だれとでもできる、とても便利なものです。気

軽にあいさつをするだけで、犯罪や非行の減少につながるの、とても良いことだと思います。

二つ目は地域や学校内での人と人とのつながりが強まるということです。これは、一つ目に言ったことにもつながりますが、あいさつをすることで、地域や学校の活性化も考えられると思いました。あいさつは人とコミュニケーションを行う上で、重要なツールであり、日々の生活の場面でも、あいさつをすることは多々あると思います。あいさつをするといつても、相手の目を見ずに、感じの悪い態度でされたら、お互いに良い気持ちにはなりません、相手の目を見て、相手に聞こえる声ですと、雰囲気も良くなり、地域全体の活性化にもつながると思いました。

三つ目は将来の自分の自信につながるということです。将来、学校生活だけでなく、受験や会社の面接であつたり、会社の職場でも、あいさつが出来る人というのは、他者から

然ですが、命は永遠に守ることはできません。皆いつかは終わりが来るのです。だから、終わりが来るまでの時間を大切に、そして記憶に残る良い思い出を作るためには、お互いのことをよく知り、仲を深く合っていくことが大切だと思ったのです。

それから、今までは他人事としてしか見ていなかった暴行事件やいじめによって自殺してしまったニュース。それまでは、「かわいそうだな。」と同情しかしていなかったし、どこかで他人事と思っている自分がありました。でも、おじいちゃんを死を思い出して、同情ではなく、理解していく必要があると感じました。これらの不快なニュースは、被害にあった人自身だけではなく、その人に今まで関わってきた人全員が被害者になり、つらい思いをします。他人事ではなく自分たちの住んでいる、身近な世界で起きていることを理解する必要がありますと思います。

今回、つらい過去を振り返って、これから二度とつらい思いをする人がなくなつてほしいなと、改めて思うことができました。その思いをしっかりと自分の中にとどめて、生きていかないとけないと強い責任感を覚えました。

でそれを取り返そうとすることは、私は良いことだと思う。少なからず、困っている人は周りにたくさんいる。その人を一人残さず救うことができれば、社会は明るくなるのではないか。罪ばかりの世界より、罪があったとしても、助け合う世界のほうがもっと良いはず。犯罪を起こさないことは当たり前かもしれないけど、日常の中での小さな罪があったとしても、きちんと反省し、良いことで取り返そうとする気持ちが大切だと思う。一人一人がその気持ちを持つことで、誰かが助けられるはずだ。

私もあの日、おばあさんを助けた。助けることは、心もあたたかくなる。私はこれからずつと、助けるその気持ちを大切に、社会の悲しみより、笑顔を増やしたいと思ったし、悪いことを悪いことで終わらせたくないと思った。

の信頼が高くなります。逆に、そういった場面で来ていないと、信用を失うことにつながり、失敗してしまう可能性が高くなります。そして、気持ちが沈み、犯罪や非行を行うリスクも高くなると考えました。そういった意味でも、あいさつと犯罪や非行は深く関わっていると思います。

これらのことから、改めて自分の行動や生活をふり返ってみました。基本的に、あいさつは「されたらする」という考え方になっていました。家族にもあまりできていないという印象でした。家族にもあまりできていないという印象でした。なので、これからは、自分から積極的にあいさつを行い、今は少し難しい年頃ですが、家族にもしっかりとしたいと思います。そして、あいさつの習慣をつけて、犯罪や非行のない地域社会づくりにつなげていきたいと思いました。





へんけんから「未来」へ

長崎小学校 6年生
本田 更紗さん

へんけんは、生きている人全員が持っているものだと思います。女子はスカート、ピンクや赤。男子はズボン、青と黒。などです。

僕は以前、へんけんで話されたことがあり、とてもいやな気持ちになったことから、他の人とかかわる時は、できるだけへんけんを使わず、相手の気持ちによりそうようになっています。

僕はある日、学校で、こんなことを言われました。

「女子なのになんてかみが短くて、ズボンはいてるの。男になりたいの。」

と。僕は女性として生まれました。でも、僕はカッコいいのが好きだったし、スカートはきらいでした。この言葉を言われた時、僕はとてもいやな気持ちになりました。そして最近、これが差別になるということを知りました。そこで、差別について、少し調べてみました。すると、障害がある人に対する差別があることを知りました。そこには、ほとんどの人が「無意識でやってしまっている。」ということが書いてありました。僕はそれを見て、無意識でやってしまっていることでも、その人をいやな気持ちにさせてしまうと思いま

した。そして次の日、ぐうぜん、視覚障害者の人に会い、そこで差別のことを思い出しました。障害があるだけで差別を受けないといけなくなるのはひどいと思い、その人を助けに行きました。その人は、点字ブロックの上に自転車が倒れていて、こまっていました。僕はその人に

「大丈夫ですか。」

と声をかけ、自転車をどかしました。するとその人は

「助けてくれて、ありがとう。」

と言ってくれました。

この経験から、社会をよりよくしていくためには、へんけんをなくすことが大切だと思いました。なぜなら、へんけんによって人がいやな気持ちになってしまうことがあるからです。そこで、へんけんをなくすために、僕たちは「他の見方をする」ということができると思いました。

明るい社会を作っていくために、これからは、人や物、障害がある人たちに対するの見方を変えて、～なのに、～だからなどではなく、その人の気持ちになって、よりそって話したり、かかわったりしていきたいです。



「コミュニケーションの大切さ」

明豊中学校 3年生
國分 稟生さん



近年、SNSが急速に普及している。SNSには自分のことをネット上で発信するものが多い。そこには自分のことを知って認めてくれる人がたくさんいる。その一方で心無い言葉を容赦なく浴びせてくる人も少なくはない。最近、SNSトラブルに関連したニュースで誹謗中傷という言葉を見かけることが多い。見えない相手からの鋭い言葉は刃となって深く心を傷つけ、時には死に追いやってしまうこともある。

では、なぜ誹謗中傷が起きてしまうのか。誹謗中傷を行う側である加害者において、主に四つの理由が考えられる。一つ目は歪んだ正義感の押し付けである。他人を叩くことによって自分の正義感を正当化させたいという心理が考えられる。二つ目は自分自身にコンプレックスを抱いているということである。劣等感から自分が持っていないものを持っている人に対して嫉妬心を抱き、攻撃的になってしまうことがある。三つ目はストレスの発散方法を知らないことである。そのためネット上で誰かのことを攻撃することで自分のストレスを発散しているという場合もある。四つ目は相手の反応を楽しんでいるということである。このケースでは何らかの精神的な病を抱えていることが多い。この四つの理由には共通していることである。それは、加害者が心に傷を負っているということだ。その傷は人によって様々だと思うが、これを治癒することが誹謗中傷をなくすことに繋がる。

そこで私達には何ができるのか。それは、人の心に寄り添うことだと思う。「寄り添う」というとすごく難しいことのように感じるかもしれない。しかし、私達が普段から行っている人とのコミュニケーションも「寄り添う」ということの一つだと思う。

例えば、人の話に耳を傾けることだ。以前学校で自分の悪口を言われていたことがあった。わざと聞こえるように悪口を言われるような状態が毎日続いていた。仲良くしてくれている友達にはそのことを知られたくなかったため言うつもりはなかった。しかし、自分だけでは抱えきることができなくなり、つい苦しい気持ちをこぼしてしまった。そのとき友達は静かに私の話を聞いてくれた。言葉を挟むことはせず、ただひたすらに私の言葉に耳を傾けてくれた。そのことが私はすごく嬉しくて心が軽くなった。このときの私のように、自分の話を聞いてくれる人がいるだけで救われる人はたくさんいる。

そして、これらは傷を負っている人に限った話ではない。その日あった出来事や思ったことを友達や家族に話したり、それを聞いたりする。そんな些細なことが人の心を救うのだ。それをみんなが知っていれば誰も傷つくことはない。辛いことや苦しいことがあったときに「自分は一人じゃない」とみんなが思えるようにすること。それが私の考える明るい社会だ。だから、当たり前のように感じる人とのコミュニケーションを大切にしていきたいと思う。



“社会を明るくする運動”とは

すべての国民が、犯罪や非行の防止と犯罪や非行をした人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場で力を合わせ、犯罪や非行のない安全で安心な地域社会を築くための全国的な運動です。

豊島区推進委員会の活動

“社会を明るくする運動”豊島区推進委員会では、例年7月の強調月間を中心に各団体の協力のもと、様々な趣向を凝らしたPR活動を実施しています。

また、「いのち」「社会を明るくする運動」をテーマに募集した作文コンテストには、区内在住、在学の小・中学校の児童・生徒の皆さんからたくさんの応募をいただきました。

“社会を明るくする運動”豊島区推進委員会 (50音順)

警視庁(巣鴨署・池袋署・目白署・巣鴨少年センター)、
東京商工会議所豊島支部、東京都薬物乱用防止推進豊島地区協議会、
豊島区、豊島区環境衛生協会、豊島区教育委員会、
豊島区更生保護女性会、豊島区商店街連合会、
豊島区青少年育成委員会連合会、豊島区町会連合会、
豊島区BBS会、豊島区保護観察協会、豊島区保護司会、
豊島区民生委員児童委員協議会、豊島区立小学校PTA連合会、
豊島区立中学校PTA連合会

中央大会「区民のつどい」

7月14日(日)に本庁舎1階としまセンタースクエアで中央大会「区民のつどい」を実施しました。セレモニー、チアダンス(Studio∞ AXIS)、合唱(すがも児童合唱団・社明合唱団)、作文コンテスト表彰式と推進委員長賞・常任委員長賞の作品発表を行いました。

地区優良賞 受賞作品

地区優良賞は、応募者の中から学校ごとに1名ずつ選出しています。

●小学生の部

学校名	受賞者氏名	作品名
仰高小学校	桑原 瑠里	私の居場所
駒込小学校	近 莉理子	「やさしさ」をつくろう
巣鴨小学校	金田 悠花	あいさつでつながるもの
清和小学校	青木 優里	助け合いの輪を広げるために
朋有小学校	清水 一伊	「命」とは
朝日小学校	高澤 花歩	「生きる」という事
池袋本町小学校	阿部 陽	命を粗末にしないために、
池袋第三小学校	池谷 雫	わたしが思う社会を明るくする運動
池袋小学校	関 怡萱	いじめによる自殺
南池袋小学校	八木原 愛菜	犯罪を防ぐ、ご近所付き合い
高南小学校	吉見 奏翔	「命の大切さ」
目白小学校	勝浦 みつき	社会のために、私ができること
長崎小学校	須藤 世真	相手の立場で考える
要小学校	三幣 圓佳	いじめ・さべつはいつなくなるのか
椎名町小学校	河越 知花	この社会をもっと明るくするために
富士見台小学校	立石 七輝	自殺、いじめがなくなる世界
高松小学校	亀山 菜希	地域のみんなで仲良くしよう
さくら小学校	岩端 慧那	私が大人になるころには

●中学生の部

学校名	受賞者氏名	作品名
駒込中学校	滝澤 英理子	地域の人と良好な関係を築く大切さ
巣鴨北中学校	古川 暖	人生最高の贈り物
西巣鴨中学校	並木 蓮	向き合うために
池袋中学校	鍋谷 菜々夏	未来が明るい社会を目指して
西池袋中学校	山本 朱莉	「広げ、思いやりの心」
千登世橋中学校	木村 美月	差別を知ってもらうために
千川中学校	澤田 大飛	命の大切さ
明豊中学校	木村 真秀	大切なチャレンジ精神